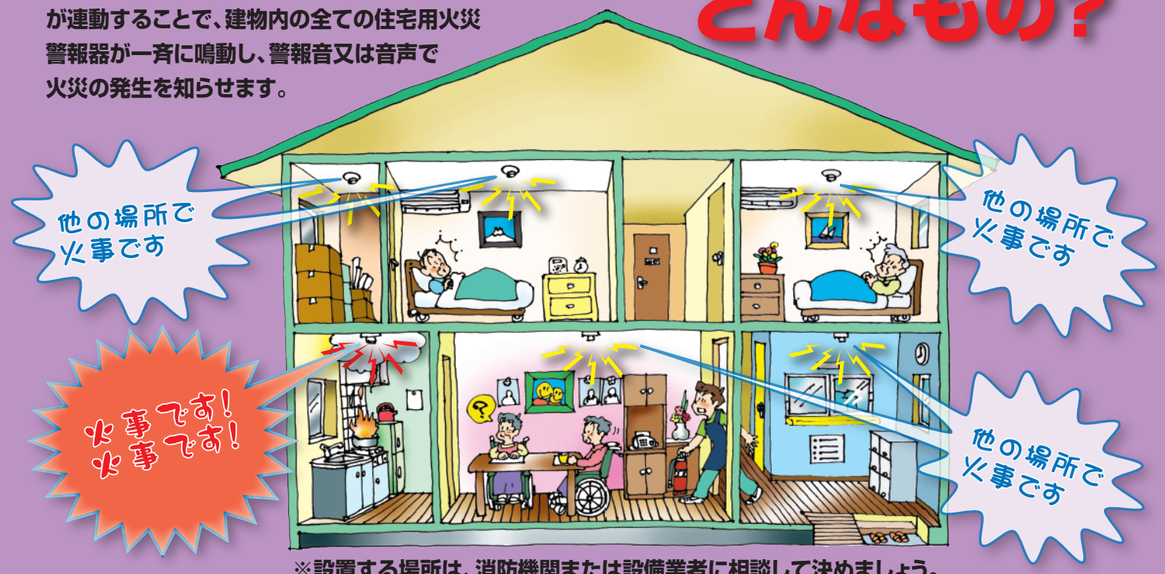
連動型住宅用火災警報器ってどんなもの?

火災室の住宅用火災警報器と他の住宅用火災警報器が連動することで、建物内の全ての住宅用火災警報器が一斉に鳴動し、警報音又は音声で火災の発生を知らせます。



※設置する場所は、消防機関または設備業者に相談して決めましょう。

火災発見までの流れ

1 火災室の住宅用火災警報器と他の住宅用火災警報器が連動することで、一斉に鳴動します。

2 各居室を見て廻り、火災室を特定します。なお、火災室の住宅用火災警報器が、他の住宅用火災警報器と異なる音声を発するタイプのものもあります。
※詳しくは、取扱説明書で確認して下さい。

3 感知場所を発見したら火災の有無を確認します。

日常の点検

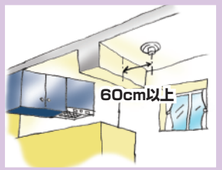
ボタン又はヒモにより、作動点検をすることができます。
また、住宅用火災警報器の電池寿命は10年が目安です。

設置上の留意点

▼壁面からの取付位置

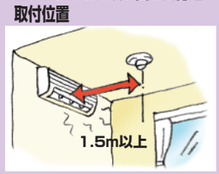
住宅用火災警報器の中心を壁から60cm以上離します。

▼梁などがある場合



住宅用火災警報器の中心を梁から60cm以上離します。

▼エアコンなどの吹き出し口付近の取付位置



換気扇やエアコンの吹き出し口から1.5m以上離します。

▼壁面に設置する場合

天井から15~50cm以内に住宅用火災警報器の中心がくるように取り付けます。

ご不明な点がある場合はこちら

小規模な施設における

防火安全対策

まさかの火災に、日頃の心構えと備えが重要です。

1 日常の火気管理

▼火の始末

寝たばこは絶対にやめましょう。
また、決められた場所で喫煙をしましょう。

▼キッチン周り等の火気管理・整頓

火を使用する前には、周囲の整理をして正しく使いましょう。

2 火災発生時の対応

▼迅速な対応

万が一、火災が発生した場合には、迅速かつ的確な対応ができますか?
被害を最小限に食い止めるため、日頃の心構えと備えが重要です。

中ページ上段へ

3 消防訓練にあたって

消防訓練を行う際は、事前準備を行うとともに、安全に注意して実施しましょう。
また、終了後には、良かった点や反省点を確認して次回に活かしましょう。

中ページ下段へ

4 設備の設置

▼設備の設置・維持・管理

連動型住宅用火災警報器は、正しく設置し、日常の維持・管理をすれば火災の早期発見にとても有効です。

裏表紙へ

総務省消防庁

もしもの火災！ 対応行動を頭に入れておきましょう。

火災発生時の行動

■火災ではなかった場合

火災が発生していなくても、電池切れや故障などにより、住宅用火災警報器が鳴動することがあります。このような場合には、メーカーの相談窓口に連絡してみましょう。

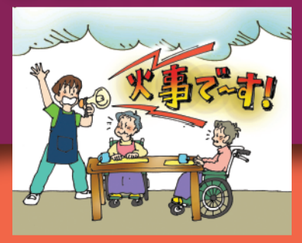
■火災覚知

住宅用火災警報器が鳴動したら、素早く行動を起こします。

■火災場所の確認

火災の疑いのある部屋に駆け付けます。
このときには、消火器を携行します。

■火災室からの避難



火災室に自力で避難できない方がいる場合には、適切な介助により、一時的に火災室の外の安全な場所に避難させましょう。

■初期消火および戸の閉鎖

火災室に逃げ遅れ者がいないことを確認し、消火器などを使って消火をします。なお、炎が既に天井まで届いているなど消火が困難な場合には、避難を優先します。

火災室を離れるときには、火災を拡大させないよう、ドアや引き戸を閉じることが大切です。

■消防機関への通報

消防機関へ119番をして、必要な事項を速やかに伝えます。
※通報に関しては、この流れにとらわれることなく、できるだけ早いタイミングで行って下さい。

■火災室にいた自力避難困難者の建物外までの避難介助

一時的に火災室の外に避難した方を、建物の外の安全な場所まで避難させます。

■火災室以外にいる者の建物外等への避難

火災の発生を叫びながら、逃げ遅れ者の有無を確認していきます。
自力避難できない方などには、適切な介助を行います。

■消防隊への情報提供

消防隊が到着したら、逃げ遅れ者やケガ人の有無など必要な情報を伝えます。

万が一の備え 消防訓練を実施しましょう。

消防訓練にあたって

訓練実施の事前準備など

- 訓練中にケガをしないよう、心がけましょう。
- 訓練は、避難が最も困難な状況を設定します。
- 利用者が訓練に参加できないときは、職員が代役となるか、人形で代用しましょう。
- 近隣に、非常時に協力してくれる方がいる場合は、一緒に訓練を行うと良いでしょう。
- 自力で避難できない方がいる場合は、介助方法を事前に理解しておきましょう。
- 訓練実施後は、良かった点や反省点を確認して、次回に活かしましょう。

■実際に避難介助や初期消火・通報行動を短時間に行う訓練をしてみましょう

▼避難介助

▼初期消火動作

・ピンを抜くなどの動作を行った上で放出姿勢をとり、15秒間維持します。
・消火器の場合は、3~6m離れた位置からねらいます。

▼通報訓練

●119番受付員役

●通報者役

火事ですか、救急ですか?	火事です
場所はどこですか?	○○市○○町○丁目○番○号です
何が燃えていますか?	○○が燃えています
あなたの名前と、今かけている電話の番号を教えてください	私の名前は○○○○です 電話番号は ○○-○○○○-○○○○です

実際に火災が発生したときには気が動転し、落ち着いて通報できなくなる場合があります。あわてて一方的に話すと正確に伝わらない上、時間もかかりますので、落ち着いて聞かれたことに正確に答えていくと良いでしょう。
ただし、通報している場所にまで煙や火が拡大するなどの危険が迫っている場合は、すぐに避難しましょう。

自己チェックのポイント

- □ 訓練はケガなく、実施できましたか。
- □ 住宅用火災警報器の適切な取り扱いが理解できましたか。
- □ 各部屋を確認し、火災場所の確認ができましたか。
- □ 火災場所の確認時には、消火器を携行しましたか。
- □ 消火器の使い方はわかりましたか。
- □ 適切に119番通報できましたか。
- □ 自力で避難できない方を適切に介助できましたか。
- □ 火災室を離れるときは、入り口のドアや引き戸を閉鎖しましたか。
- □ 逃げ遅れ者の有無を確認しましたか。
- □ 消防隊へ必要な情報を適切に伝えることができましたか。
- □ 近隣協力者との連携はうまくできましたか。

その他、気付いたことなどを皆さんで話し合いながら、万が一の火災に備えましょう!